

2020 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	近藤 伸介
研究テーマ	アーラヤ識とショーペンハウアーの意志
研究概要	アサンガの『撰大乘論』とショーペンハウアーの『意志と表象としての世界』を主要なテキストとし、アサンガの語る「アーラヤ識」とショーペンハウアーの語る「意志」との比較を中心に、両者の思想を様々な視点から比較検討する。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>本研究では、ショーペンハウアー Arthur Schopenhauer の『意志と表象としての世界 <i>Die Welt als Wille und Vorstellung</i>』(以下、『世界』と略)、及びアサンガ Asaṅga (無著、無着) の『撰大乘論 <i>Mahāyāna-saṃgraha</i>』を主要テキストとし、ショーペンハウアーにおける「意志 Wille」と大乘仏教の唯心論哲学である唯識 <i>viññapti-mātratā</i> における「アーラヤ識 <i>ālaya-vijñāna</i>」との比較を中心に、両者の思想を様々な視点から比較検討する。</p> <p>ショーペンハウアーは、仏教を最も優れた宗教と評価し、また自らの思想が仏教とかなりの点で一致していることを認めている(ただし、仏教からの影響は否定している)。特に「世界は私の表象である」という彼の世界観は、仏教の中でも唯識のそれと近似していると思われるが、ショーペンハウアーと仏教の比較研究はすでに多数存在するものの、唯識に特化した比較研究はこれまでなされてこなかった。よって本研究は、両思想の近似性・共通性について検証することを目的とする。</p> <p>『世界』には、随所にインド哲学や仏教に関する記述が見られるが、本年度は、『世界』からそれらの記述をピックアップし、唯識との比較にふさわしいテーマごとに整理した。その結果、「表象」「意志とアーラヤ識」「死生観」「解脱」「涅槃」という5つのテーマを設定し、これらのテーマに関する両者の記述を並べ、大まかな比較検討を行った。当初考えていたよりも大きなテーマであったため、本年度はまだ十分に深い比較研究を行うには至らず、その成果は論文ではなく、研究ノートとしてまとめることとなった。しかし、ここでの考察は、両者のさらに深い比較思想研究の可能性を探る上で重要なものとなるはずである。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>研究ノート「ショーペンハウアーと唯識—比較思想研究の可能性を探る—」『佛教大学総合研究所紀要』第28号、pp. 73-81、佛教大学総合研究所(2021年3月、査読有)</p>
3. 今後の課題	<p>2021年6月に開催される比較思想学会第48回大会で個人発表を行う予定なので、それに向けて発表内容をまとめる。発表題目は「ショーペンハウアーの意志とアーラヤ識—現象世界の背後にある存在基盤—」で、今年度の研究では十分に深められなかった、ショーペンハウアーにおける「意志」と唯識における「アーラヤ識」との比較研究を行う。この両概念は、誕生した時代も地域も大きく異なり、互いに影響がなかったにも関わらず、ともに現象世界の背後にあり、かつ現象世界そのものを生じさせる存在基盤として高い類似性を有している。発表では、両概念がそれぞれの思想の中でいかに成立し、また両概念がそれぞれの思想においてどのような位置を占め、どのような意味を持っているのかについて考察し、両者の共通点と相違点を明らかにしたい。</p>